

袖ヶ浦市郷土博物館友の会・会報

友の会だより 第57号

発行 友の会事務局

袖ヶ浦市下新田 1133 番地

郷土博物館友の会

TEL:0438-63-0811

FAX:0438-63-3693

発行日:令和7年6月1日

R7年度・郷土博物館友の会
総会開催・4月20日(日)

R7年度の総会を4月20日(日)13時より根形交流センター(根形公民館)視聴覚室で開催しました。

総会には出席27名、委任状21名を含めて48名の出席で開会。

各グループ(G)代表からR6年度のG活動報告、会計担当から決算報告、監査担当より監査報告があり、いずれも承認されました。

次にR7年度事業計画、予算についても審議の結果承認可決されました。

新年度の役員は、改選期を

迎え新会長に矢野佳次様をはじめ新任7名、留任9名の陣容になります。

2期4年間会長職を勤められた中西明様お疲れ様でした。

R7年度友の会
役員の皆様

- 会長 矢野佳次(風の会)
- 副 吉田保雄(仏像)
- 副 西原崇浩(博物館長)
- 理事 高橋 久(太古)
- 大滝浩介(風の会)

友の会・新会長
「楽しい会にしたい」
矢野佳次 記

本年度から友の会・会長を中西明様から引継ぐこととなりました矢野佳次です。

兎に角、友の会を『楽しい会』にして博物館の期待に応えていきたいと思えますので、引き続き皆様方のご支援、御協力を宜しくお願い致します。この度の役員改選で副

会長、事務局会計、グループの代表の交代もあり、又博物館側の友の会担当も異動になり、友の会役員総勢16名、活動7グループ、会員総数55名で新たにスタートすることになりました。

又前年度まで友の会活動を博物館側から支援して頂



R7年度総会風景(根形交流センター)

- 吉田保雄(仏像)
- 今井久明(いろは)
- 石井英美(機織り)
- 中村康司(盆栽)
- 渡部和代(植物画)
- 武田 弘(風の会)
- 田村静子(無所属)
- 事務局多田信子(事務)
- 小野智美(会計)
- 今井久明(編集長)
- 鎌田望里(館職員)
- 印新任・印留任

いた水流副主査の異動先での御活躍を祈りますと共に新しく着任された鎌田学芸員の今後の活躍を期待致します。

又市民の皆様の博物館友の会へのご入会をお待ちしております。

第28回
**ミュージアム
フェスティバル**
みて・きいて・つくって楽しい博物館

2025. 6.7(土)・6.8(日)
10:00 ~ 15:00

遊ぶ・書く
袖ヶ浦市歴史資料館
木更津市歴史資料館
和太鼓体験
ファミリーコンサート
昭和レトロなラジオ展
まじまじのジャゴンゼショ

つくる
知法・民謡
コスプレ
まじまじ

体験する
火起こし・たき火
大船乗り体験・船中船内
ジャグリング体験さんと遊びっ！

お楽しみ
企画展「1時のくらしと大騒動」
博物館の常設展
図解展(自然観察会)

袖ヶ浦市郷土博物館
(袖ヶ浦公園内)

袖ヶ浦市下新田1133番地
TEL:0438-63-0811
FAX:0438-63-3693

第28回ミュージアム
フェスティバル開催へ通知等郵送費削減に関するアンケート実施
【本年度から承諾者へ
メール連絡に変更実施へ】

経費削減策として葉書等による連絡につき、メールへの変更可否を全員にアンケートをとった所、総数55名の内、回答25名、回答無し30名でした。回答者25名の内、メール連絡承諾22名、非承諾3名でした。

新年度早速、承諾者に対してメール変更実施していきますので皆様の御理解、御協力お願い致します。

友の会各グループ活動報告

活動の幅を広げ『太古の会』 旧土器作りの会名称変更へ

新年度から『土器作りの会』の名称を『太古の会』に変更致しました。

1984(昭和59)年に発足し40年。縄文弥生の土器や土偶を作っていた活動を、古代人が作った道具や装飾品にまで幅を広げ、いわゆる大昔から平安時代ぐらいまでを対象にしました。

地元産の素材に拘り、当時の手法を試行錯誤しながら出来るだけ忠実に再現しようとする手法はかわりません。

今年度は、前半に古墳時代の勾玉や埴輪、後半に縄文土器や土偶を作る予定です。土

風の会 『作って揚げる 楽しさを伝える』

子供は風の紐を持ち、走る準備をする。風を高く持ち上げる大人。『いくよー』と適度な風を頼りに手を放し、子供は走り、風が大空に舞う。自分で揚げた風が大空に舞うことが、子供の心の満足



埴輪作り(2月)

器の焼き場探しに毎回苦慮しているとのことで、博物館周辺の適当な場所に、当時を偲べる焼き場が確保できればと思っています。土器作りは未経験ですが忠実なレプリカが作れるよ

感、達成感につながる。そして大空に舞うまで、失敗を繰り返し何度も『チャレンジ』する気持ち育てる。

しかし、風揚げする場所も少なく、風あげをしたことのない子供が、多くいるのが現状である。

風の会の活動は、伝統文化技術を次代に引き継ぐため技術を学び、伝承普及である。

う皆様の御指導を宜しくお願い致します。

(代表 高橋久 記)

仏像を学ぶ会 大鳥居・勝蔵院へ

昨年10月、秋たけなわの頃、市内大鳥居集落の勝蔵院(真言宗)を訪ね、寺役員の見富さんに、ご案内頂き仏像を拝観致しました。

勝蔵院は、南北朝期に創建されたとの事で現在は、無住です。拝観した本尊の銅像阿彌陀如来立像は、小さめの立像ですが、優雅なお姿は何とも言えぬ雰囲気を感じさせてくれました。他に木造の観音菩薩立像、勢至菩薩立像は年代を窺わせるものでした。勝蔵院の入り口には、巡礼供養の石の道標が立っており、同院から高倉観音への古道が現在でも一部残っているとのことでした。

会員も高齢化するにつれ身近な所の仏像拝観する活動が中心になってきました。地域のお寺を訪ねる事で、今まで気づかなかった発見や歴史を知ることが出来ます。

(会員 竹井文子 記)



地元の管理が行き届く勝蔵院本堂

R7 年度 各グループ会員数と今年度活動計画 (純会員数 55 名)

グループ名	代表者	会員数	今年度活動計画
1 太古の会 (旧土器の会)	高橋 久	7	4月~9月:勾玉、埴輪作り 10月~3月:土器作り
2 風の会	大滝 浩介	10	定期集会;毎月第4日曜日 M-FSTA,根形公民館祭、新春風揚げ
3 仏像を学ぶ会	吉田 保雄	7	定例学習会:隔月第2土曜日 仏像鑑賞会(川原井、横須賀、東博)
4 古文書いろはの会	今井 久明	10	定例学習会(月2回、第2,4金曜日) 8月(博物館ロビーにてPR、飾り紐他)
5 機織りの会	石井 英美	4	通年活動(毎週水曜日)。 カラムシの収穫、糸作り、綿の栽培他
6 盆栽愛好会	中村 康司	4	春季盆栽展、M-FSTA、秋季盆栽展
7 植物画葉月の会	渡部 和代	7	定例会(毎月第3土曜日) 博物館ロビーでの作品展示等
合計		49	(R7年4月20日現在)

各グループ参加者49名+無所属13名-重複所属7名=55名(純会員)

植物画 葉月の会 『市民ギャラリー』 展示へ・6月』

4 月庭の草花が咲き誇る中
樹木(果樹)、桜、李、杏子、梨、
りんご、そして藤と見事に花盛
り。しかしアットという間に散り
行くという感じでした。

さて今回、市役所の市民ギヤ
ラリーにおいて瀧先生主宰の
『グループはなは』の皆様とこ
一緒に葉月の会の作品も展示
させて頂けることになりました。
期間は、6月10日(火)～

機織りの会 『今、畑に藍が 芽吹きました』

4 月中旬の今、畑に藍が芽吹
きました。昨年のかぼれ種から
の発芽です。丈夫そうな苗を畝
に集めて育てます。

7 月には1回目の、9 月には
2 回目の藍葉の収穫ができま
す。生葉は、きざんだり、塩も
みにした液で絹を水色に染め
ることが出来ます。たっぷりの
湯で3 回煮だし、薬品で調整す
ると、明るい青に染まります。

昨年は、豊作で乾燥葉を沢
山作る事ができました。手元
にある葉を有効活用したいと
会では知恵を絞っている所で
す。(会員 今井恵子 記)

30 日(月)迄です。

又郷土博物館のロビーにも
葉月の会として定期的に展示
できることになりました。う
まく描けないながら展示会と
なると心躍ります。

植物達の美しい自然の姿、
コレもアレもと、描いてみた
いと思いがあふれます。そう
いう思いを感じていらつしや
る皆様どうぞ、葉月の会を見
学参加してみませんか?

どうぞお待ちしております。
(会員 長谷川洋子 記)



盆栽愛好会

『春の早春化展 4月4日(金)～6日(日)』開催

令和7年度、会の活動は4
月4日(金)～6日(日)の3
日間旧進藤家住宅での春の早
春花展で始まりました。

今回は、天候にも恵まれ約
500名近くのお客様が足を
運んで下さいました。毎回こ
の展示会を楽しみにして来ら
れる方が年々増えてきました。
私達

としても嬉しく思いとても励
みになっており、次回はより
印象に残る会にしなければと

古文書いろはの会

『仙石騒動と市内三黒・松見寺』

市内三黒の現吾妻神社に、市
指定有形文化財『松見寺神谷
轉(かみやうた)石碑』があり
境内には石碑と虚無僧姿の案
内板があります。(左写真)



吾妻神社(松見寺)の石碑と案内板

石碑の神谷轉とは、何者な
のでしょうか。

会では、『仙石騒動神谷轉自
筆全』なる古文書の写しが会
員から提供され、その内『左
京不屈式拾三箇条写』と『奉
願候覚』を読んでみました。

さて、江戸のお家騒動とい
えば有名な伊達騒動、加賀騒
動、そして所説ありますが『
仙石騒動』を含めて『江戸
の3大騒動』と云われています。

その仙石騒動に深く関わ
った人物が、『神谷轉』です。
仙石騒動とは、天保年間、
但馬国出石(いずし)藩(現
兵庫県豊岡市)で時の藩主仙
石美濃守政義が若くして病
没。そこから次期藩主の座を
めぐり、改革派家老の仙石左
京、旧守派家老仙石造酒(み
き)が対立。幕府老中まで巻
き込む大騒動に発展します。

旧守派は、改革派の仙石左
京の横暴を阻止せんと、江戸
の上屋敷の藩士神谷轉と連
携し、仙石左京・藩政横暴の
数々『23ヶ条』を江戸の仙石
家親戚筋に配布しますが、逆
に改革派に阻まれてしまい、
無実の罪に陥れられ、神
谷轉にも国元への帰国命令
がでてしまいます。

身の危険を感じた神谷轉
は脱藩し、友鷲(ゆうが)と
改名。下総小金(現松戸市)
の一月寺の虚無僧になり、そ
の末寺である当地の三黒松
見寺の看主になります。

寺の用で江戸へ出た所を
町奉行に捕縛されるが、普化
宗一月寺から僧侶に付、寺社
奉行管轄である事を訴え、つ
いに寺社奉行の吟味に移行、
結局仙石左京の横暴が明る
みになり、改革派は断罪を受
けることになりました。

三黒の松見寺は、戊辰戦役
の頃、焼失したらしく現在吾
妻神社となっており、今も境
内には、虚無僧墓碑が三基並
んでいます。



いろはの会：石碑現地見学

案内板には、石碑は、仙石
騒動が収まった天保七(18
36)年神谷轉こと友鷲が建
立したとされていますが、こ
の石碑には、仙石騒動の顛末
等は一切、記載がありません。
(代表 今井久明 記)

総会記念講演兼第177回・袖ヶ浦学開催 『房総と浮世絵・師宣と広重』 菱川師宣記念館・前館長 笹生 浩樹氏

総会記念講演は、見返り美人として有名な菱川師宣記念館前館長・笹生浩樹先生による『房総と浮世絵・師宣と広重』と題して行われた。

現在TVの大河ドラマ『べらぼう』は数多くの浮世絵師を見出して世に送り出した出版人・葛屋重三郎が主人公だが、その『浮世絵の祖』とよばれるのが菱川師宣である。講演概略は以下の通り。

開講早々菱川師宣につき『大和武者絵の序文』がスクリーンに映し出され『・三家の手跡を筆の海にうつして、これにも



講演風景(根形交流センター)

とづいて自ら工夫して後この道の一流をじゅくして浮世絵師の名をとれり』と師宣を紹介先生は、この中で『自ら工夫して』という箇所が重要だと指摘され、師宣の工夫は、江戸のメディア絵画革命を起こしたと解説された。

師宣は、これまでの文章主体の本から挿絵主体の絵本へと転換し、目で楽しめる絵本を誕生させた。江戸の流行をいち早く情報発信し庶民が何を好み、欲しているかを分かり易く絵で描いたと云う。

又、浮世絵の浮世とは、憂き世(辛く苦しい世)と浮世(はかない世)の意味があり、特に江戸中期以降、浮世絵の題材に江戸庶民の今を描き出し、今風の新しいタイプの絵として、『浮世絵を描く新たな絵画文化・浮世絵』を誕生させた。

師宣の工夫は、これまでの肉筆画から『版画を1枚絵として販売』へと転換し安価で、量産できる木版画の絵画を製作し、絵画の大衆化に力を注いだ。

反面、晩年の師宣は、肉筆画

の傑作を生み出した。有名な『見返り美人図』である。

女性を正面から描かないで、振り返った一瞬の姿をとらえることで、髪型や帯などの流行の姿を描き江戸の女性像を表現した。



菱川師宣記念館前

一方、師宣から150年遅れて浮世絵界に風景画というジャンルを確立した歌川広重(1797年~1858年)は、房総地区に2度旅行しており、数々の房総の風景版画を製作。

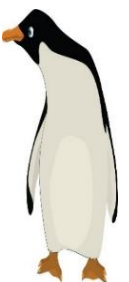
今日に伝わっている、『富士36景上総房州保田ノ海岸』や『不236景上総木更津海上』等が紹介された。

広重のエピソードとして『菜の花や今日も上総の そこ一里』の句をあけて『あとすこしだよ』という意味の『そこ一里』という地の言葉をめぐる広重の逸話も紹介された。

後日、保田の菱川師宣記念館を訪ねると、師宣の自画像が入り口で迎えてくれた。

(事務局 今井 記)

博物館からの お知らせ



◎企画展Ⅰ

『村のくらしと一大事』

日時・R7年5月13日(土)~

7月21日(月)

午前10時~午後3時

場所・郷土博物館

江戸時代の刑事事件に関係した古文書を読み解き、当地域に暮らした人々が何を罪と思いい、どのような危険の中を生きてきたかを探りながら、当時の村の暮らしの実際に取りります。

鎌田さん着任

4月1日付けで郷土博物館に異動となりました鎌田と申します。以前は生涯学習課で主に埋蔵文化財保護事業に携わっており遺跡の発掘調査等を担当しておりました。

博物館にきて感じることは、人々との交流が多く、業務の幅が広いということです。

友の会や市民学芸員の皆様が意欲的に活動に取り組む姿勢に刺激をうけています。

この度、友の会を担当させていただきます、皆様の活動をサポート致しますので、どうぞ宜しくお願い致します。

願ひ致します。

(鎌田 望里(みさと) 記)



編集後記

物の値段が急激に上昇と実感。会でも昨年末、経費削減の一環として葉書等による通知からメールに変更を計画。

会員全員に、その受入れ可否のアンケートを実施した所、一面にも記載した通り55名の会員に対して回答者は25名、回答無しは30名の結果。

驚いたのは、実に55%半数以上の方が回答無し。

一方、回答を寄せた25名の方の内22名の方はメール連絡に御承諾頂きました。

新年度から、会員への通知は従来の葉書等による通知とメールによる通知と2系統になり事務が若干、煩雑になります。が、スマホ利用は、世の中の趨勢でもあります。

友の会矢野新会長から役員間のライングループが設定され、現在加入者間での情報交換が必要に感じられており、今後一層推進されます。

尚、この友の会だよりは、会員全員に同時に届くよう郵送を維持してまいります。

(編集担当 今井久明 記)